

## 令和6年度 第2回松本市スポーツ推進審議会会議録

### 1 日時

令和6年11月19日(火) 午後1時30分から午後2時50分まで

### 2 場所

松本大学 4号館 大会議室

### 3 次第

#### (1) 開会

#### (2) あいさつ

#### (3) 会議事項

ア スポーツに関する市民アンケート報告について

イ 第1次松本市スポーツ推進計画の達成状況について

ウ 骨子案の検討について

#### (4) その他

#### (5) 閉会

### 4 出席者

#### (1) 委員 (11名)

吉田顧問、根本会長、小林副会長、新井委員、横内委員、福田委員、  
柄澤委員、山崎委員、小松委員、伊澤委員、宮下委員

#### (2) 事務局 (8名)

ア スポーツ事業推進課

山本茂課長、待井課長補佐、東山課長補佐、齋藤係長、牛山主査

イ スポーツ施設整備課

輪湖稔課長

ウ 特定非営利活動法人SCOP

木亦主任研究員、今井リサーチアシスタント

### 5 議事録

(スポーツ事業推進課 東山)

こんにちは。皆さん、時間前ですけれどもお揃いになりましたのでただ今から、令和6年度第2回松本市スポーツ推進審議会を開会いたします。私はスポーツ事業推進課の東山睦子と申します。議事に入るまでの進行を務めますのでよろしくお願いたします。初めに根本会長からご挨拶をいただきます。

(生涯スポーツ 根本会長)

皆さん、こんにちは。根本です。今日もまたお疲れ様です。

挨拶といわれてもあれなんですけど、この土日たまたま仕事で大阪へ行っていたんですが、そこで発表させていただいた話が、私も急に振られたものですからデータをまとめてみたのですが、40代、この長野県の人たちのデータをとって、40代から50代で筋力がたんと落ちるのは先生たちもご存じだと思うんですけど、筋肉量ってのはあまり減ってないんですよ、40代から50代ってのは。50代を過ぎると筋力も筋肉量もガンガンガン減っていくのですが、なんでだろうってずっと考えて、さぼる筋肉としっかり動く筋肉ってのはやっぱりあります、60代でも、70代でも筋肉しっかり動かしていくとそれ相応の筋力を維持できているので、やはり今日の計画案もそうなんですけど、体しっかり動かしていくのが重要なことと、あと大阪とか、名古屋、東京なんかの方たちとデータを比べているんですが、やっぱり長野県ってのは運動量が少ないと顕著に出ていますので、そういったこともここ10年、向こう10年ですけど、いい計画案ができればと思いますのでよろしくお願いいたします。

(スポーツ事業推進課 東山)

ありがとうございます。議事に入る前に本計画の策定のスケジュールが変更になりましたので事務局からご説明いたします。

(スポーツ事業推進課 齋藤)

スポーツ事業推進課の齋藤と申します。よろしくお願いいたします。着座にて失礼いたします。それでは次第の次の資料になります。第二次松本市スポーツ事業推進計画策定スケジュールをご覧ください。当初の予定では本日の審議会を10月に開催しまして、来年の7月に計画を策定する予定でしたが、計画の策定支援業務委託の契約が一月遅れたことにより、本日の審議会以降のスケジュールが一月後ろ倒しとなり、計画の策定が令和7年8月に変更されましたのでご承知おきください。また、本日はスポーツ推進計画の策定支援業務を受託していただいておりますSCOPのキマタ様にもご出席いただいておりますので、よろしくお願いいたします。本日の会議事項について説明していただきますのでよろしくお願いいたします。

(スポーツ事業推進課 東山)

それではこれより、議事の進行を根本会長にお願いいたします。

(生涯スポーツ 根本会長)

それでは会議事項の1(1)スポーツに関する市民アンケートの報告についてSCOP様の方からご説明いただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(SCOP 木亦)

特定非営利活動法人 SCOP の木亦と申します。我々 SCOP でございますけれども、信州大学を母体に設立いたしました新規バンクでございます。行政計画や社会調査のお手伝いをしております。どうぞよろしく願いいたします。それでは着座にてご説明させていただきます。

お手元でございます令和 6 年度スポーツに関する市民アンケート報告書をご覧ください。こちらページをめくっていただきまして目次のところをご覧ください。本日限られた時間でございまして第一章の調査概要と第三章の考察、こちらに主要な結果をまとめておりますのでこちらを中心に報告させていただきます。それでは第一章、調査概要ということで 1 ページ目、ご覧ください。調査の目的でございますが、松本市スポーツ推進計画の施策を検討する際ですね、基礎資料とするための調査となっております。2 の調査対象、調査方法・結果、回答結果でございますが、こちらの調査でございますけれども、18 歳以上の市民の方 1,000 名を対象にしております。令和 6 年 6 月に実施いたしました。回収数 323 名であります。こちらの市民アンケートでございますが、第一次の計画を作る際、平成 16 年にもですね、同様の調査、実施しております。一部の項目では経年比較分析を行って経過をみております。それでは第三章 46 ページをご覧ください。市民アンケートの結果をですね、スポーツを「する」、「見る」、「支える」の状況でありましたり、パラスポーツ、また松本市に力を入れて欲しいこと等を中心にですね、こちら結果まとめているものとなっております。まずスポーツの実施状況、今後の意向という「するスポーツ」というところになっております。図表 96 でございますが、現在スポーツをしている割合というところを見ていただきますと、令和 6 年 49.5% ということであります。平成 26 年 49% でありましたので、横ばいで推移しているといったところでございます。こちらはですね、性別や年齢別にみていきますと、女性がですね 40 代以下の若い世代で、スポーツを実施している割合、下がっている傾向がございます。スポーツを実施していない理由見ていきますと、図表 99 になりますけど、多くの方は「時間がない」、「するきっかけがない」といったところ高くなっておりました。また、女性のところでですね、顕著にですね「きらい」、「苦手」、「興味がない」や「お金がかかる」といったところがですね、高く出ておりました。次のページ、47 ページをご覧ください。こちら年代別にですね、実施していない理由といったところ聞いた結果になります。50 代以下になりますと、「時間がない」「するきっかけがない」といったところ高く出ております。やはり育児とかですね、仕事とかで時間の制約が大きい世代でございます。時間の確保といったところは、スポーツの実施につながっていないといったところございますし、「きっかけがない」といったところ、「金銭的負担」「スポーツに対する苦手意識」などは実施率を下げているといったような結果が出てきております。続いて (3) がです

ね、スポーツに取り組むため、条件や今後取り組みたい種目等聞いた結果となっておりますので、そちらをご覧くださいと思います。図表 101 になりますけれども、スポーツ実施率が低い女性や若い世代といったところはですね、こういった条件がそろえばスポーツをやるかといいますと、「時間への余裕」でありましたり、「スポーツに取り組める、身近に加入したいと思える団体」がある、やですね、「金銭的な負担」等があげられました。こういったところにですね、支援といったところが有効であると考えられます。また次のページの 48 ページの表 102 になりますけれども、今後取り組みたいスポーツといったところを聞いた結果となっております。スポーツの実施率が低い年齢の若い世代を見ていきますと、ヨガやピラティス、ウォーキングといった項目がですね、高くなっておりまして、こういった教室であったりイベントっていうのも、きっかけづくりとして有効なのかなというふうに見ております。続いて (4) スポーツイベント・行事への参加状況というところがございます。令和 6 年、前年にですね、スポーツイベント・行事に参加したかという割合みていきますと 13.7%でありまして、平成 26 年よりも下がっております。実際参加したイベント見ていきますと、地区のイベントや行事に参加している割合が減少してきてというふうの結果が見えてきておりまして、コロナ禍を背景にですね、こういったイベント・行事が減少したといったところが、参加率下がっているところに影響与えているのではないかと考えております。続いて図表 104 になりますけれども、今後参加したいイベントといったところになります。こちら男女別の結果になっておりますが、女性でですね、顕著に高くなっておりまして「楽しくストレス解消ができるイベント」や「美容や肥満解消のためのイベント」といったところが高く出ております。続いて 49 ページご覧いただければと思いますが、こちら今申し上げた参加したいイベントというのをですね、年代別に見た結果となっております。10 代から 30 代におきまして、今申し上げた「楽しくストレス解消」であったり「美容や肥満解消」といったところのですねニーズが高く出ております。また少し年代が上がってきますと、「健康や体力づくり」や「家族、友人と交流できるイベント」等のニーズがですねみえてきております。性別、年代でですねニーズ異なっておりますので、各層に応じた働きかけというところがですね、有効になってくのかなというふうに調査結果から分析する中で見ております。続きまして 50 ページご覧ください。こちらからはですね「見るスポーツ」や「支えるスポーツ」ということで、観戦やボランティア活動の状況の結果をまとめております。まずスポーツの観戦状況というところとなっております。図表 106 でございますが、前年一年間にですね競技場で何らかのスポーツを観戦したかといった結果となっております。平成 26 年、観戦していないといった割合がですね 66.1%、令和 6 年が 74.3%となっております。観戦してないという割合が上がっているというところでもあります。またですね、テレビ等のスポーツ観戦の状況も聞いておりましてそちらの結果も見ていきますと、平成 26 年何らかのスポーツを視聴した方は 88.9%でしたが、令和 6 年に

は72.6%ととなっておりまして、16.3%減少しているということで、スポーツの競技場やテレビ等の観戦といったところがですね、減ってきているというところがございます。続いて(2)のスポーツ関係ボランティア活動というところになっております。こちらに関しましては平成26年からですね横ばいで推移しておりまして、実施していないという方が9割超えるといったところが続いてるところでございます。続いて51ページご覧ください。こちらからはですね、パラスポーツの状況というところのですね結果となっております。パラスポーツの種目をしているかという図表109の結果ご覧いただければと思いますがこちらは前回からほぼ夜這いということで推移しております。図表110、年齢や状態を問わず解除が必要な方もスポーツができる仕組みが整っているかという問いに関しましては、こちら前回からほぼ横ばいでですね「整っている」という方は1.6%ということでもござっております。続いて図表111のところでございますけれども、障がいを持った方と一緒にですねスポーツをしたことがあるかという経験を聞いた質問となっております。こちらはですね前回4.5%から今回令和6年9.6%に上がっております。わざわざありますけれども伸びているというところでもあります。図表112になりますけれどもボランティアの経験におきましては、わずかながら上がっているというところでもあります。パラスポーツに関しましては環境の整備といったところにはですね改善の余地があるのかなとふうに見て取れる結果ではございますが、少しずつ障害の有無にかかわらず楽しむといった取り組みは広がっているのかなというところが、調査結果から見て取れると思っております。続いて52ページご覧ください。こちらからはですね、スポーツ推進計画に対する期待ということで、市民の皆さんが松本市に力を入れて欲しいと考えていることといったことを聞いた設問になっております。図表113を見ていただきますと、今年度令和6年度上位に来ていますのが「スポーツ指導者の育成」といったところ、「公共スポーツ施設の整備充実」、続いて「学校体育、子供のスポーツ活動づくりの支援」といったこの3点が高くなってきております。この3点につきまして関連する設問をですね結果をまとめたものがこれ以降のところになっております。まずスポーツ指導者の育成といったところに関する項目を見ていきますと、図表114になりますけれども、何らかのグループに所属している方がですね指導者がいますかという設問を見ていきますと、前回より少し下がってきているというところがございます。一方で図表115になりますけれども、スポーツ指導の資格を持っているかといったところだと、前回1.5%から6.5%に上がってきているというところがございます。引き続きですねこういった資格の後押しをしていくことや資格を取得した方が活躍できる場など設けていきまして、指導者を育成していく取り組みが求められているのかなというふうにご覧いただけます。続いて53ページご覧ください。こちらはスポーツ施設の整備・拡充に関する設問となっております。図表が116ですがスポーツ施設に関して望むことというところの結果となっております。市民の方がですね令和6年施設に望むこととしましては、一番は「施設料を安く

してほしい」といったところ、次いで「利用手続きを簡単にしたい」といったと利便性の向上といったところを望むものが上位にきておりました。3番目になりますと施設数を増やしてほしいというところきております。施設数に関しましては前回平成26年より大きく低下しております、以前よりも施設数を増やしてほしいというニーズは下がってきているのかなというふうに見ております。続いて(4)子供のスポーツ活動等に関する設問となっております。今回のアンケートではですね子供の運動に関する機会ということで、幼児世代、小中学生世代、高校世代という3世代でですねどの程度充実しているかという充実度を見ております。こちら見ていきますと、あまり充実してい、充実していないとかネガティブな割合をみていきますとですね、特に幼児世代におきましてポジティブな割合よりネガティブな割合が高めに出ておりますので、このあたり課題に感じておられる方多いのかなというふうにてしております。幼児期からですね、スポーツに親しむ環境といったところをより一層充実させていくことが求められているというふうにいえるかと思えます。また図表の下の118のところにありますけども、第二次の計画で本格的に進んでいきます中学校部活動の地域移行に関する設問も聞いたものになっております。こういった中学校の部活動の地域移行が進むということを知っているかということに関しましては、知っている方が58.6%ということで半数程度となっております。以降の時期まで知っているかという、令和8年度までに移行ということで目指しているというところがございますが、こちらの移行時期まで知っているかということだと25.9%ということで、まだ低くなっておりまして、さらなる周知を行いながら地域との協力体制を整えていくこと、必要かなというふうにて考えております。以上アンケートのご報告となります。

(生涯スポーツ 根本会長)

ありがとうございました。ただ今のご説明に対しまして何かご質問、ご意見等ございましたら挙手にてお願いいたします。

(学校 宮下委員)

ご説明ありがとうございました。このいま説明いただいた様々なデータで26年度と比較を説明されましたけれども、サンプル数からすると26年が倍ちょっとというようなサンプルでの確率でよろしいでしょうか。

(SCOP 木亦)

はい。サンプル数が前回と今回違ってございまして、こういった形の相関のサンプル数になっております。

(学校 宮下委員)

私自身、統計学には精通していませんけども、比較が半分くらいの差があっても統計的には違いというものは、これで評価していいのかどうかというあたりについての見解をお聞かせください。

(SCOP 木亦)

サンプル数やはり少ないとですね誤差が多くなることがございまして、前回よりも半分というところになりましてその誤差率は深くなっております。そちらを加味していきながら数字をみてきております。若干わずかな上昇といったところはある意味傾向として見ておりますので、そういったことを加味していきながら評価といいますか、分析をしているというところでございます。

(学校 宮下委員)

ありがとうございました。傾向とかね、そんなところは見られるのかなと思い大きな前回との違いというようなところでは、あまりその正しい傾向というよりも、同じような傾向の中でも結果が出てきているのかなということも感じますので、そんな質問をさせていただきました。ありがとうございました。

(生涯スポーツ 根本会長)

ありがとうございました。他にございますか。

(吉田顧問)

説明ありがとうございました。全体的にですね、コロナ禍の影響ってのがもうなくなってきたってことで理解してよろしいですかね。そのあたりがちょっとどうなのかなと思いながら見ていました。

(SCOP 木亦)

コロナ禍の影響に関しましては、今回R6年に調査を行いまして、昨年のR5年度の傾向等聞いてはおりますので比較的少なくなっているなと思う一方ですね、地区のイベントだったり行事であったりというのはまだ再開しきれてない部分があるのかなというところがございまして、今回も下がってきておりましたので、コロナ禍でやはり活動が停滞してそのまま中止しているものもあるというふうに伺っておりますので、このあたりに関しては影響は出ているのかなというふうに捉えております。

(生涯スポーツ 根本会長)

他にございますか。新井委員、お願いします。

(スポーツジェンダー 新井委員)

おまねきいただいてありがとうございます。いくつか質問があります。ちょっと細かいというか、初歩的というかそういった質問なんですけれども、6 ページのですね図表 8 のところ「現在スポーツをしている人のところ」の回答でですね、その他というのは具体的にどういう答えなんでしょうか。

(SCOP 木亦)

図表 8 ですかね

(スポーツジェンダー 新井委員)

そうです。

(SCOP 木俣)

すみません。ちょっと今その他の内容がすぐに確認できないんですけども、いくつかリストを出しておりまして、その中でリストにないものがある他になっておりますので、少し確認してまた報告書の方に追記するようにいたします。

(スポーツジェンダー 新井委員)

すみません、ありがとうございます。それからもう一つなんですけれども、46 ページ「スポーツの実施状況・今後の意向など」での回答についてなんですけど、ここの下の方 (2) の「女性や若い世代がスポーツを実施してない理由」のところスポーツの実施というところで、スポーツというのは回答者は何を想定してスポーツというものをとらえているのか教えて欲しいです。

(SCOP 木亦)

先ほども具体的にスポーツをしているというところで種目一覧というのを出示しておりまして、かなり細かく例示をしておりましてどんなものに取り組んでいるかということですね実施状況を聞いております。そういった設問の後にですね、してない理由等聞いておりますので回答者の皆さんが想起されたスポーツというのにおきましては、こちらの一覧にございます、ご覧になられてると思いますが、ウォーキングでありましたり、ランニング等からそういった競技スポーツ、陸上競技等まで幅広くご提示をさせていただいておりますので。ラジオ体操とかも含めてご提示はしていますので、幅広くとらえていただいた上でのしてない理由になろうかと思えます。

(スポーツジェンダー 新井委員)

ありがとうございます。最後です。ページ、47 ページなんですけれども、図表 100 ですかね、ちょっと待ってください。すみません、49 ページですね。すみま

せん。図表 105 になりますが、ここのところにかっこ書きが書かれてるじゃないですか。例えば「健康や体力づくりのためのイベント（各種健康教室など）」というふうに。これはどういうふうにとらえているんですか、かっこ書きは。その下の「ヨガ教室など」とか。

（SCOP 木亦）

例示に関しましてはですね、今選択肢にお示ししている、例えばですけど楽しくストレス解消ができるイベントといったところで具体的にどんなものか浮かべづらい際にですね、こういったかっこ書きで例示をお示ししてイメージを持っていただくという手法で設問を作ることがございまして、今回もですねなるべくイメージいただけるように、イメージを加えてお聞きしたというところでございます。

（スポーツジェンダー 新井委員）

ということは例えば「ヨガ教室」ってのは調査する側が親切心で付けたということ。

（SCOP 木俣）

はい、そんなところでございます。

（スポーツジェンダー 新井委員）

ひょっとしたらそれが逆に、すみません、なんといえはいいんでしょうか。性差を生むような、そういった要因になってしまうかなと感じたんですけど、以上です。

（生涯スポーツ 根本会長）

他にありますか。よろしいですかね。はい、どうぞ小松委員。

（パラスポーツ 小松委員）

SCOP より松本市さんへの質問になるかもしれませんがこの 41 ページからの自由記述という欄があるんですけども、これに関しての検討とかはなされているのかというところと、僕はイメージができないんですが松本市の規模、全国にある松本市レベル、人口的のね、モデルとなるようなスポーツが活発となる場所があって、そういうようなところに近づけていこうとかは思ってるかどうかとかはあるのか。というのは例えば感覚でものを言ってる人が多いと思いますが「施設が少ない」と。人口比でこのぐらいあれば多くなって一般的に言われてるんですけど十分松本市は満たしているんですよといえれば納得できると思うんですが、ただ少ないとだけいわれちゃうと松本市も可哀そうなきがするんですよ。一方で〇〇

市はこれだけあって利用率は非常に高くなってる。だから多いほどいいはずだから松本市それをここにもってきたいとか。なんかそういうふうに繋がっていけばいいと思うんですが、自由記述の意見に関しての松本市としては、これだけ集めてどするかあるようでしたら教えていただきたいんですが。

(スポーツ事業推進課 山本)

ご意見ありがとうございます。今お話がありました施設に関しては、どちらかという人口に対して施設がいくつとかという数値もあるんですけど、結構他の松本市よりもちょっと大きい、例えば姉妹都市なんか姫路市さんとか藤沢市さんとかによく言われるのが、松本市さんって本当に体育施設とか多すぎるんじゃないのそういう意見とか結構聞きます。ただ地元の人たちにしてみてもっと欲しいとかそういう要望とかも色々出てくるかと思うので、どれが正しいか正直分からない部分もあってそういったものもこれから、実は中学校の地域移行、部活動の、そういったところも学校の施設を体育施設として使っていくとか、色々な課題が出てくるかと思しますので、そこら辺の多い少ないというよりはただ単に要望に応じるかということかではなくてしっかり目を向けていかなければいけないかなとは捉えています。自由記述に関しては、これは全てこの意見対してお答えするという形ではなくて、こういった意見をもとに今後の10年間の計画をどうやって決めていくかという参考としたいと思っていますので、このご意見に関してすべてをお答えするという事ではないです。それからもう一点は、いずれにしてもこの松本市推進計画10年、この先10年を策定して推進していくわけなんですけど、やはり松本といたらスポーツはなんだというものがまだまだパツと出てこないところが正直あったりとか、だからと言って何かに特化するわけはありませんので、これからの計画を策定していくにあたってはこの10年先、例えばきっかけとしてはオリンピックが開催されたとかパラリンピックが開催されたとか、それからこれから長野県で国スポ全小スポが開催されるとか。そういったのを契機にできる限りスポーツ、それからスポーツと運動ってちょっと別に捉えていますので、そういった取り組みが一人でおも多くできていくような計画にしていきたいと考えてます。以上です。

(生涯スポーツ 根本会長)

ありがとうございます。そうしましたら、時間の関係もごございますので次の方に移らせていただきたいと思えます。よろしくお願ひします。次の会議事項(2)ですね、第一次松本市スポーツ推進計画の達成状況についてこちらもSCOPさんの方からご説明いただきたいと思えます。よろしくお願ひします。

(SCOP 木亦)

それではですね、第一次スポーツ推進計画の達成状況という資料をご覧いただ

ければと思います。第一次の計画ではですね、5本の基本目標をたてまして施策を推進してきたところでございます。こちらですね、取り組みの達成状況を確認するために、各事業の担当課の皆さんに事業評価を実施していただきました。こちらですね、お手元でございます枚数の多い資料となっております。こちらがですね、担当課にいただいたシートの原本となっております。こちらのシートがですね、右から3列目のところ総合評価というところございまして、各事業の担当課の皆さんに5段階でご評価いただきました。Aが「予想通りに順調に進んでいる」、Bが「計画通り進んでいる」、Cが「順調ではない、遅れている」、Dが「未実施等で評価できない」、Dが「役割等終えたため事業として終了した」といったところでまとめていただいております。こちらの評価、担当課の皆さんにご記入いただいたものですね、かなり分量ございますので、こちらのシートを端的にまとめたものがA4の裏表にございます達成状況のものとなっておりますので、こちらをもとにですねご説明させていただきたいと思っております。まずですね基本目標1はですね「生涯スポーツの推進」というところでございます。こちらですね、48の事業があがっております、そのうち約9割以上が順調に進んでいるというところで、AまたはBという評価となっております。特にですね、担当課の皆さん、すごく成果が上がっているというところを見ていきますとパラスポーツ分野でございまして、参加者数が増加してきてですね、だれもがスポーツをする機会の影響につながってきているというのがこの10年の成果として上がっております。また今回の調査でも実施率の低い女性といったところにもですねターゲット絞ったスポーツセミナー等も行ってきておりまして、こういった女性のスポーツの実施といったところも力を入れてきたところでございます。一方課題といたしましては「参加者の固定化」や「若年層の参加者が少ない」ところが各事業見られておりまして、こういったところ次期計画で改善してく必要あるのかなと捉えております。続きまして基本目標2「子供のスポーツ活動の推進」というところでございます。こちらにおきまして20事業評価いただきまして9割以上がAまたはBの評価となっております順調に進んでいるというところでございます。特に成果として挙げていただいたところで、部活動の出前コーチング事業というところがございまして3年間で市内の中学校を巡回し、プロのスポーツ選手から直接指導を受ける機会等を作ったというところでありまして、子供たちがスポーツに親しむ機会というところの提供ができていっているところでございます。しっかり現状を維持しながら、引き続き指導者の確保・育成であったりこういった機会の創出を行っていくということが求められているのかなと捉えております。続いて裏面ご覧ください。こちら基本目標3「競技スポーツの推進」というところになります。こちらにおいてもですね多くの事業がAまたはBに該当しております順調に進んでいるというところでございます。成果といたしまして、松本山我FCのホームタウンで一やVC、長野トライデントなどの無料招待などですね、市民がプロスポーツを見る、支えるという、関わりがもてる環境づくりというのを

進めてきたというところでございます。またですね乗鞍ヒルクライム、ツールド美ヶ原高原自転車レース等などですね、コロナ禍以前の水準に戻ってきてまいりまして進んできているというところでございます。しかしながらというところでございますけれども、こういった競技スポーツ、そういったイベント等を支える地元関係者の高齢化といったところの課題もございまして、次期計画におきましては若い方の参加化も含めこういったスポーツ、競技スポーツの維持といったところ取り組んでいく必要があるかなと捉えております。続いて基本目標4「スポーツ活動の環境整備」というところでございます。こちらに関しましても11事業のうち8ですね、AまたはBが8割というところでございます。特にですね、情報発信といったところですね、松本市さん力を入れておられるという中で成果が出てきていまして、従来の方法の他にSNSですね、そちらを活用し多角的に発信されてきているというところで成果いただいております。またですね、公認スポーツ指導者資格取得推進事業等では資格取得にかかるですね費用の一部負担等を行いながら資格取得の支援や指導者の質等向上といったところにも取り組んでおりまして、こういったところに引き続き次期計画でも進めていくというところが必要かなと考えております。続きまして基本目標5「スポーツによる地域活性化の推進」となります。こちらにおきましても19項目のうち約8割が順調に進んでるというところになります。特に成果として挙がっておりますのが、女子の野球タウン認定というのを契機に初めて開催した松本のローズカップといったところでありまして、女子野球の普及でありましたり、そこを実施しました四賀地区の活性化につながったというような成果が出てきております。また東京オリンピックの事前キャンプ誘致やですね連野国際大会事前合宿誘致等、スポーツ施設を有効に活用した交流人口の拡大というのでも取り組んでこられたというところでございますし、また山の日を実施しております四方山祭り in 上高地はですね、参加者数が増加してきておりまして、スポーツと地域の活性化といったところが繋がった取り組みというところのですね見えているところでございました。以上第一次の達成状況ということでご報告させていただきます。

(生涯スポーツ 根本会長)

ありがとうございます。ただ今のご説明に関しまして何かご試問、ご意見等ある方は挙手にてお願いいたします。よろしいですかね

(スポーツジェンダー 新井委員)

すみません、初歩的な質問なんですけど、D評価の施策というのは今後どういうふうになっていくんですか。

(SCOP 木亦)

Dのですね未実施等で評価できない施策でございましてけれども、入ってきており

ますのが総合型地域スポーツクラブ等の関係等でございまして、例えばですねそちら側に出ておりますがこちらに関しましては、今そういった地域クラブを広く支援しているという中でいる総合型に捕らわれずといったところで松本市さんの方では進めてきておられているところでございます。次期計画でですね本来であれば行政でやるべきなのか民間の方がやるべきなのかそういった議論をしていきながらですね、未実施の事業に関しましては引き続きやっていくか否か含めて計画で議論していくことが必要かなと捉えております。

(スポーツジェンダー 新井委員)

ありがとうございます。

(生涯スポーツ 根本会長)

他にございますか。よろしいですかね。続きまして会議事項3「骨子案の検討について」SCOPからご説明いただきたいと思います。

(SCOP 木亦)

それではですね、骨子案についてご説明させていただきます。骨子案はですねまず目次をご覧くださいと思います。こちら骨子案、3章構成となっております。まず第一章「計画策定の基本的考え方」、第二章「スポーツを取り巻く現状と課題」、第三章「計画の基本理念」となっております。それではですね、第一章からご説明させていただきたいと思いますので1ページご覧ください。まずですね計画策定の趣旨というところでございます。こちらの計画ですが平成23年に策定されましたスポーツ基本法に基づいて策定するものとなります。スポーツ基本法におきましてはスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人の権利であるとされておりまして、青少年の体力向上やですね、地域社会の再生、心身の健康の保持や増進等のため多岐にわたる役割を担うというふうにされておりまして、松本市におきましてもスポーツ基本法の趣旨に基づきまして第二次の計画策定というふうにございます。続いて2の計画の位置づけというところをご覧ください。こちらの計画でございますが、図表1見ていただければと思いますけども、国のですねスポーツ基本計画、長野県が策定しておりますスポーツ推進計画等を踏まえながらですね策定していくものでございます。また松本市の上位計画でございますが松本市の総合計画と松本市教育振興計画が上位計画にございまして、そちらの個別計画として位置付けております。ですので国や県のトレンド、また上位計画の構想の実現といったところですね、こちらの第二次スポーツ推進計画、目指していくというところが重要となっております。続いて3の計画期間になります。計画期間ですが、令和7年から令和16年までの10年かということで策定をいたします。続いて2ページ目をご覧ください。まずですね国、県の計画の概要ということで、今回計画の策定において踏まえておくべき国、県の計

画の概要をですね簡単ではありますがまとめたページとなっております。まず

(1) 国の第三次スポーツ基本計画でございます。こちらではですね、「する・みる・支える」ということを実践できる社会を目指すためにということで、新たに3つの視点くわえられまして、図表2にございます「作る/育む・あつまり、ともに、つながる・誰もがアクセスできる」こういった視点を取り入れていくことが重要であるというふうに示されております。また基本計画で取り扱うスポーツとしまして、図表3にございますけどもスポーツがですね自発的な模索等を通して楽しさや喜びを感じるものであるということや、また地域の活性化に寄与するものであるといったところが示されているというところがございます。続いて(2)の県のスポーツ基本計画となっております。こちら県のスポーツ基本計画はですね基本理念を「スポーツの力で切り開く長野県の未来」といったところでウェルビーイングの実現といったところがですねキーワードとして上がってきております。また県の計画でですねスポーツの力・価値というところを見える化するというところで図表4になりますけども整理されております。スポーツそのものが有する力や価値や、スポーツそのものが社会活性化等に寄与する力・価値といった二つの視点でまとめてきております。国、県の計画を見ていきますと、こういったスポーツの持つ力の見える化でありましたり、スポーツを通したウェルビーイングの実現といったところがですね、キーワードとして挙がってきておりました。そういったとこ松本市の計画でもですね受けていけたらなというふうに考えております。続いて3ページ目ご覧ください。松本市の上位計画にございます総合計画、教育基本計画の概要となっております。松本市総合計画、こっちでございますがこちらはですね基本理念としましては「三ガク都に象徴される松本らしさを『シンカ』させる」ことということで、豊かさと幸せに挑み続ける三ガク都とということ掲げられております。そしてですね「みとめる・まなぶ・いかす・つなぐ・いどむ」という5つの行動目標とですね、市民の皆さん一人一人の幸せと豊かさを実感できる町の実現を目指すということ掲げているところがございますので、こちらに寄与していく、実現につなげていくというのがスポーツ振興計画の地盤と捉えております。また、過去に第3次の教育基本振興計画でございますが、こちらでではですね「子どもの育ちと市民の学びを支える学都松本」ということが基本理念に掲げられております。以上こちらが市の上位計画の概要となります。続いて6の「スポーツの捉え方」というところをご覧ください。この第二次の計画レベルをですね、引き続き、第一次から引き続きになりますけれども広い意味でスポーツを捉えていくというところで考えております。二段目でございますがこちらの計画ではですね、競技スポーツをはじめ、体力づくりや健康の保持増進のために計画的・意図的に実施する運動か、趣味や交流のための気軽な運動やレクリエーション、体を動かすことを意識した通勤通学や仕事家事等の日常生活の合間に行う簡単な運動、そういったものを含めてスポーツとして幅広くとらえていくということでそちらの方を記載させていた

だいております。以上ですね今申し上げた点踏まえながらですね第二次推進計画を作っていきたいと考えております。続いて第二章をご覧ください。第二章「スポーツを取り巻く現状と課題」となっております。まず最初ですね社会情勢の変化というところでお示ししております。様々な社会の変化有ります。そのなかで第二次の計画にですね特に影響与えてくるかなというテーマをですね5点ほど絞り、掲載させていただいております。この他ですねもう少し踏まえるべきこんな流れがあるということあればぜひご助言いただければと思っております。5点ですけどまず1点目が「SDGsへの貢献」ということで、スポーツと運動というところが健康、教育、地域コミュニティの強化など様々に寄与するものでありまして、SDGsへの目標達成というところに貢献していくところが期待されるというふうに捉えております。また2点目としまして、「人生100年時代の到来」が予測されているというところがございます。100年という期間を健やかに暮らし豊かなものにするために、一人一人の心身の健康増進、健康づくりや仲間づくりに寄与する活動としてスポーツ、運動というのがより一層期待されていくというところと捉えております。3点目がですね「デジタル技術の急速な進展」というところがございます。あらゆるところでデジタル技術、活用されてきております。スポーツ、運動の分野につきましてもリモートでのスポーツ教室など、多様な形での楽しみ方ができるような活用が進んできておりまして、二次においてもこういったデジタル技術の加わってくる要素というふうに捉えております。4点目がですね「多様性を認め合う共生社会の実現」というところがございます。障がいの有無をはじめ、配慮が必要な方達、多様な方たちがですねスポーツや運動を通じてお互い参加していけるところ非常に重要になっておりまして、性別、年代、障がいの有無、国籍といったところの違いを超えて、尊重し合う社会が求められているというふうに捉えております。最後5点目でございますが、「中学校の部活動の地域移行」というところあります。松本市におきましても令和7年度までに休日部活を、そして令和8年度には平日部活も地域移行というところ目指しておりまして、その受け皿となるスポーツクラブや教員に代わって部活動を指導できる人材の確保といったところ、重要になってきているというふうに捉えております。続いて5ページご覧ください。こちらですね松本市の現状と課題ということで、統計や市民アンケートの結果をもとに現状と課題を整理したものとなっております。(1)人口高齢化の状況といったところご覧になっていただければと思います。松本市ですけども、これまで人口増えてきていたところであったんですけども、平成27年度から令和2年にかけては緩やかに総人口減少したというところがございます。今後でございますけれども人口の動向でございますが、国立社人研の最新の推定によりますと10年後にですね64歳以下の人口は減少すると、さらに減少していくという見通しでございます。一方ですね65歳以上の高齢者人口に関しましては令和27年まで増加するというふうに推定されておりますので、高齢化より一層進んでいく中で健康の維持増進の取り組みというのはさらに重要になってくる

と考えられます。また、0～14歳の子供たちも減少していくということが、次の10年で代替23%減という数字でしております。地域によってはですね学校での集団スポーツが難しくなるといったですね、そういった課題生じてくる可能性ございまして、児童生徒の減少によって不利にならない取組等も大事になってきますし、公共施設に関しても中長期的な視点に立ち、人口減少に見据えた複合化・集約化の検討も必要な時期にきてるのかなというふうに捉えております。続いてこちらから(2)からはですね成人のスポーツを「する」「見る」「支える」の状況で先ほどご説明させていただきました市民アンケートの結果を載せておりますので説明を省略させていただきます。ですので8ページをいただければと思います。8ページでございしますが時期計画のポイントというところがございます。今申し上げた国、県の動向でありましたり、社会潮流、統計や市民アンケートの結果をもとにですね次期計画のポイントを整理したページとなっております。大きく3点に整理してあります。一点目がですね「年代、性別、障がいの有無に関わらず、運動に親しむ機会を充実」していくというところ、より一層重要になってくるととらえておりまして、そういったスポーツをすることによって様々な力、効果というのを市民の皆様が実感をよりしていくといったところ、大切だと捉えております。2点目としまして、この人口減少・少子高齢化が進むということが予想されている中、こちら誰もがスポーツ・運動に親しめる環境の確保といったところ重要というふうに捉えておりまして、その際のデジタル化の活用であったり、少子化して思った施設の維持、複合化、集約化等の検討ですね、あと指導者の育成等も重要なことというふうに捉えております。3点目としましては、スポーツ・運動の魅力を生かした賑わいの創出・交流促・まちづくりということで、プロスポーツ、競技スポーツの振興、交流人口の拡大といったところでもあります。人口減少している中でこういったところで活力を見出していくところ必要と考えておりまして、こういった大きな3つをですね循環していきながらですね、スポーツや運動の力を生かしてより豊かな暮らしの実現に繋げていくというところが重要なことというふうに捉えております。以上の結果、こういった結果踏まえまして次期第二期の計画の基本理念、基本目標の案を作成しております。そちらが第3章というところになっておりますのでご覧ください。基本理念でございますけれども、スポーツや運動というところの参加を通して、楽しさ、豊かさ、幸せの実感に繋がるといえるところと言えます。そしてですねスポーツや運動を通して地域社会への様々な効果というのがですね期待されているところでもあります。そういった中でですね幼少期から高齢期に渡り、だれもがスポーツや運動を楽しめる環境を作ることで、健康増進や交流人口の拡大を図りまして、一人ひとりの豊かさや幸せを実感できる活力あふれる街を実現していくというのを基本理念として掲げていきたいらなというふうに考えております。今申し上げたような表と内容をですね端的に示す表現として、事務局でいくつか案を考えております。こちらの案に関しましてはぜひいろいろご意見をいただきたいなと思っております。12月中頃に

までですねこちらのところ決めていきたいなと思っておりますので、ぜひこういった基本理念の文章に込めるべき要素であったり、この端的に示す表現やワードですね、こういったことぜひ色々ご意見頂戴できればなと思っております。続いて10ページご覧ください。こういった今申し上げた基本理念実現に向けたですね基本目標をというところがございます。第二次に関しましては基本目標を3本に集約いたしまして実施していくということで案を考えております。まず基本目標1ですけども「スポーツ活動の推進」というところがございます。こちらはですね、世代のニーズに合わせたスポーツへの参加の機会の充実を図りまして、年齢、性別、障がいの有無に関わらず誰もがスポーツに、生涯にわたりスポーツに親しむことができる取り組みというところを推進していくということを実施していきたいという基本目標1になっております。こちらの基本目標1に紐づく施策としましては下の表にございますが、「子どものスポーツ・運動活動の推進」であったり、「個に応じたスポーツ活動の推進」といったところが、紐づいてくるというイメージであります。なお個に応じたというところは、年齢、性別、障がいの有無にかかわらずと、それぞれの個に応じた推進活動を支援していくということで、パラスポーツ等も含まれているというところで、含んでいきたいというふうに考えております。続いて基本目標2、スポーツや運動に親しむ機会の充実というところがございます。こちらに関しましては、施設の計画的な維持管理をですね行いながら誰もがスポーツに親しめる環境の確保いたしますし、各年代に応じたスポーツや、指導者の育成支援といったところを行ってスポーツ環境の充実を図っていくというところがございます。こちらに紐づく施策としましては下の表になります。安心安全のスポーツ施設の維持管理、地域スポーツ指導者・団体の育成支援等が入るという想定でございます。続いて基本目標3「スポーツの魅力を生かしたにぎわいの創出・交流の促進」というところになります。こちらに関しましては、プロスポーツへの継続的かつ多角的な支援により観戦機会の充実やですね、松本市の特色を生かした多彩なスポーツイベントの開催により、市内外の交流人口の拡大と地域活性化を図るというところがございます。また、プロスポーツや各種競技団体による専門的な技術指導の提供によってですね、競技スポーツの人口の拡大と技術力向上というところ図っていくというところがございます。こちらに結び付く施策としましては3-1「プロスポーツとの連携・活用」、3-2「スポーツ大会・イベント等の実施による交流人口の拡大」というところがございます。こういった基本目標、施策等でですね第二次基本計画、進めていきたいなというふうに事務局案として考えておりますが、こちらに関しましても色々ご意見いただければと思います。以上で説明をさせていただきます。

(生涯スポーツ 根本会長)

ありがとうございます。第3章の計画の基本理念を1~4案の1、それから10ページのところ、この辺を中心にご意見をいただくという形でよろしいですね。時

間の関係ございますので、今日は決定ではなく、ご意見だけということによろしいですか。

(SCOP 木亦)

はい。今日ご意見をいただきまして、12月ごろをめどにですね基本理念、基本目標、施策等を決めていきたいかなと思ってございます。

(生涯スポーツ 根本会長)

はい、ありがとうございます。そうしましたら、先生方、ご意見ありましたら挙手していただきたいと。吉田顧問お願いします。

(吉田顧問)

時間もありませんので一番根本的な話を。スポーツと運動という言葉でですね両方並列してつかってあったり、単にスポーツとして使ってあったり、それぞれの意図は何でしょうか。それからスポーツ推進計画なんですけど、スポーツと運動とですねそういうような表現もありますので、そのあたりどうなのかなと。一応行政計画ですのですっきりしといたほうがいいかなと。スポーツ基本法ではですね運動を含む身体活動というふうに捉えているので、スポーツという表現でもいいのかなと思って。運動をですね特に強調するということであるならば、「スポーツ推進計画」を「スポーツ・運動推進計画」というふうに変えたほうがいいのかなど。以上です。

(スポーツ事業推進課 山本)

ご質問ありがとうございます。先生のおっしゃる通り、実はですねここはスポーツと運動という言葉、正直悩んでる部分があって、ここら辺もご意見聞きたいと思っています。なぜかというとならばなんですけど、スポーツを推進していく中で高齢の方とかでスポーツをやるっていうのはハードルが高い、でもいわゆる家でちょっと運動するとか。ちょっとした運動とかあるじゃないですか。そういうのも含めて、今この言葉を並列して使わせていただいているってのがあるんですね。で、今のご意見の通り例えば計画なのですっきりした方がいいとか、あとその他色んなご意見があると思いますので、ここはそういった意味を含めてのこういう並列ということを考えてますので、よろしくお願いします。

(生涯スポーツ 根本会長)

座長でありながら、私の分野でのご意見を述べさせていただきたいと思うのですが先生方もご存じの通り、2024年1月にですね身体活動・運動ガイド2023が出版して、今山本課長がおっしゃったように運動と我々の分野でいうと、スポーツという言葉と運動という身体活動というのと、若干違和感があるのが正直ありま

す。ですので吉田顧問がおっしゃったように、私の個人的な意見はスポーツと運動とか並列させちゃうなら並列させちゃったほうが僕はいいのかなという意見です。すみません、個人的な意見です。他に委員の先生方がいかがでしょうか。

(吉田顧問)

私もその意見に賛成です。おそらく松本市としては健康作りとかそういった関係や観点もありますので、僕はスポーツと運動、でスポーツは疲労を考えた身体活動のこの用語として、運動の方は松本市の独自の政策の観点からですね一つ加えといたほうがいいのかなと思いました。

(生涯スポーツ 根本会長)

ありがとうございました。他に何かご意見ございましたらどうぞ。

(宮下委員)

感覚でものをいってしまってすみません。骨子案の基本的な考え方について特に意見はないんですけれども、基本理念というのは10年間使われていくものなので結構大きいかと思います。感覚からすると第1案の「スポーツや運動を楽しみ、豊かさや幸せを」というのをぱっとして自分の感覚なんですけど、あまり未来を感じないなということで、今私のスマホでAIにですね未来の松本市のスポーツ推進計画のテーマはと聞いたらですね6個ぐらい出てきます。例えば「スポーツでつながる健康や地域の未来」とか、「誰もが楽しめるスポーツの町、松本」とか、何かこう未来を想定できるようなテーマというかキャッチフレーズというかそういうものにしていくのがいいのかなというのが、すごい感覚ですけれどもこんなことを意見として言わしていただきました。以上です。

(生涯スポーツ 根本会長)

はい、ありがとうございました。そんなご意見も反映させていただければと思います。他にいかがですか。

(スポーツジェンダー 新井委員)

私も皆さんと同じ意見なんですけどもやっぱり10年間ということで、昔の10年間と違ってすごく変わるの早いと思うんですよね。私の中でなんでだろうと思ったのが、もちろんですねアンケートの結果をもとにたたき台として「する」「見る」「支える」というような言葉を理念として掲げたと思うんですけれども、私の中ではやはり「作る」とかという言葉はすごく大事だと思ったんです。例えばさっきの言葉で、スポーツという言葉から想像できるのって競技スポーツとかそういうところだと思うんですよね。それを頭においてスポーツ実施したのどれくらいですかと答えていくと、多分女子の場合だとスポーツはあまりしたいとは

思わないと思うんですね。なので、なんとはいえいいんでしょう。これから自分たちで作っていく、新しい身体活動、身体文化を作っていくといった、そして自分たちがそれを楽しむんだといった、未来を想像できるようなそういった理念と言葉が欲しいなと個人的には思いました。以上です。

(生涯スポーツ 根本会長)

はい、ありがとうございます。そういったご意見とかも反映させていただきたいと思います。他に、はい、小松委員。

(小松委員)

どうしてもこういうものには言葉の定義って必要になってくると思うので、スポーツの捉え方はあるんだけど、運動のに関しての定義はないので。僕も運動という言葉はじっくりくるので、ぜひ運動という言葉の定義を入れておいていただいて、すべての人が体、健康づくりに向かっていけばいいと思いますので、ぜひそのようにしていただけたらと思います。

(生涯スポーツ 根本会長)

はい、ありがとうございます。他に、はい、柄澤委員どうぞ。

(プロスポーツ 柄澤委員)

はい、ありがとうございます。第二章でわざわざ(5)に中学校の部活動の地域移行というところを項目出しをしていただいておりますので、計画の基本目標のところも入れるべきでないかなと。やっぱりこの3年、5年がかなり正念場になってきて10年間見通したときにどうなっていくかというところは未来はまだ分からないと、もしかしたら呼び戻しもあるかもしれない。ですけど、直面している問題には変わらない、スポーツに業界として直面している問題であることは変わらないと思いますので、基本目標、もしくは施策の中にはしっかりと入れ込んでいただきたいというのが一点。もう一点なんですけれども、仕事柄、産業界の皆さん、経済界の皆さんとお話しすることが当然多いわけで、スポーツをする人とか、「個」って捉え方でいうと、「する」「見る」「支える」という考え方があると思うんですけれど、やっぱり経済界も部活動の地域移行も含めて、スポーツを支えていくという局面に入っているじゃないかなと思っていますので、ぜひ、これは基本目標とは関係なくですね、ぜひ何かしら視点として計画の中に入れていただければありがたいかなと思います。以上です。

(生涯スポーツ 根本会長)

はい、ありがとうございます。他にございますか。はい、伊澤委員。

(パラスポーツ 伊澤委員)

10年ということで先を見て言うと、今の中学生の移行というのは新潟なんかでも聞いたことがありかなり進んでいるようですが、老人が増えてくる。そうするとスポーツではなくて市民検診なんかを受けて、その後「運動したほうがいいですよ」なんて言われてジムなんかに通いだす方が増えてるんですよ。それってスポーツじゃなくて運動なんですよ。今度高齢化、ここのアンケートなんか見ても高齢の方が結構お答えになって、自分が健康とスポーツ、スポーツというか運動というのがタグになってるんですよ、年取ってくると、65以上になってくると。その方たちがやはり、できるだけ健康寿命を延ばしていくということが、やっぱり松本市の福祉においても、福祉というよりは厚生においても必要になってくると思うので、やっぱりそういう視点も入れて、運動というのを残されていったらいいのかなと思ってます。

(生涯スポーツ 根本会長)

はい、ありがとうございます。貴重なご意見、ありがとうございます。他にいかがですか。はい、横内委員どうぞ。

(オールスポーツ 横内委員)

はい、お疲れ様です。スポーツと運動の言葉の捉え方のお話があって、新井先生がすごく未来志向でスポーツをとお話が合ったんですが、そもそも論で、松本市が作るスポーツ推進計画は、スマホで見てるんですけど、スポーツ基本法というものがあって、国の第三期のスポーツ基本計画を参酌して地方の事情に応じて定めるというふうに法律はなっておりますので、資料でいただいたこのスポーツ推進計画の骨子案の一番上のところに載っている図表3の「本計画の国の計画が定めるスポーツの考え方」というところをもう少しわかりやすく、松本市の計画の中のスポーツとしてしっかりと説明したうえで、皆が共通認識で「スポーツとはこういうものだよ」というふうにして、計画をもう少しわかりやすく体裁を整えたほうがいいのかなど、スポーツと運動の議論では決してないなど。もう一点はSCOPさんにまとめていただいたもので、もともとのアンケートと、一次計画の施策評価がありまして、こちらのクロス集計みたいなことをしてるかどうかはまた別の議論なんですけれども、国の法律が地方の事情に応じてというところが、松本市の独自としてどんな要素をこの計画の中で主体として考えていくかというところ、少しなんかエッセンスがあったほうがいいのかなど。スポーツの計画なので、もともとの「する」「見る」「支える」みたいなことって聞いたらどこも同じだと思うんですよ。松本市に視点を転じた時に地方の事情に応じてという法律になっているので、松本市として何か特別な、パラスポーツでもいいでしょうし、水泳でもいいでしょうし、特別な何かこう視点が入った計画になればいいか

など、そんなふうに思いました。

(生涯スポーツ 根本会長)

はい、ありがとうございます。他に。なかなかこれをまとめていくの大変だと思いますが。はい、～どうぞ。

(パラスポーツ 小松委員)

非常に難しい問題だと思うんですが、中学校の地域移行って話があるんですが、特別支援学校もありますよね。ただそこらへん、ややこしいんですけども。中学までは義務で、高等部なんて養護学校としては一個の塊になっちゃうので、なかなか部活動ってのは成り立ってないのが実情なんですよね。市独自で動くのは非常に難しいと思うんですけど、もし検討の余地があるようでしたら、その中等部の子供たちをどうするかっていうのもちょっと検討いただけたらと思います。

(スポーツ事業推進課 山本)

中学部活動、今移行期間中ということで、私ども一個心配しているのは、おそらく令和8年とか、9年に移行が完了したときに、今度、公立高等学校だとか、そういったところにも波及していくんじゃないかなと、ちょっと心配も正直してる部分もあります。当然、小松先生おっしゃったように、そういったところも目を向けて考えていかなければいけないなということは考えています。それからその全案のこの10年先の計画の中で、当然パラスポーツを始めとして、これからもっともはやっているのは今、一般の方がすぐできるようなニュースポーツだとか、それから今日山崎さんいらっしゃいますけれどもアーバンスポーツ、それからeスポーツっていうのもものすごく人気が出てきてますので、そういったこれからの10年後に増えてきそうなそういったものも、このもうちょっと細かな計画の中にも一応入れてく必要があるのかなと正直思ってるところもありますので。

(生涯スポーツ 根本会長)

ありがとうございます。はい、宮下委員。

(学校 宮下委員)

では二つお願いします。部活動地域移行、私中学校ですので直面していますが、今日の骨子を作るうえで特にいう必要はないかなと思ったんですけど話題になったので、今現実はいよいよ地域移行っていうのは現実味を帯びて先日あったのも、私の学校だけではないんですが、他の学校も6年生の保護者に向かって今後のスケジュール等をお話をし意見交換をしました。そうすると自分がスポーツっていうのを部活動でやってきたんだけど、中学行ったら自分の子供ができな

いのかどうしたらいいのか、という疑問のところから始まるわけですよ。日常的にスポーツ、部活の場合はスポーツ・文化活動ですけども、それを日常的に行うという環境がなくなるというふうに、部活動地域移行を通した時にはそんな考えが、お子さんを持っている親によってはそういう考えがあるんですよ。最近、地域移行が地域展開という言葉に代わってきているようなニュースがありますけれども、実際にうまくいくのは人とお金があれば何とか地域移行はうまく行くんじゃないかなと、私たちも、学校側としても、何とかそこはうまくやっていきたいなと思っているんですけど、2つ目の意見としては、この5ページのところに人口減少のところで、統合化とか集約化が必要ってあるんですけども、本校、丸の内中学校に私務めてるんですけども、今探求の学びっていうのをやっています。これは県の指定を受けて探求の学びを小学校と中学校で繋げながらやっているんですけど、これは高校への探求というものがあります。この学びっていうことを考えると、探求の学びは生まれた時から死ぬまで、この学びっていうのは繋がっていくんですよ。ですので、この学びをどんなふうに繋げていくのかっていうのは学校だけに限らずとても大切なことなんですけれど、これをスポーツに置き換えるとスポーツも運動も先ほどの議論もそうですけれど、自分たちの身の回りにある環境に自然にあるものというようなことを考えると、松本市の課題として言うと、なかなかそのやりたけど環境が近くにないとか、やる人がいないとか、そういう課題がある松本市が複合化とか集約化によって松本市が、スポーツが自然と小さいころから高齢者までできるような環境をどのように作っていくかというのはとても大きなテーマだと思うんですよ。そうすると例えば本校は、5年後に改築というようなニュースが出ているんですけども、願いとしては幼稚園から、公民館から、複合型の施設にして地域の人がいつでも使えるような、そんなようなものにしてけると、未来は学びとスポーツを複合化したようなものになると思うんですけども、なかなかその横の議論で行政の出来ないところとか苦手なところだと思うので、ぜひ10年後の減少化やその施設の維持管理というところまで考えた時には、そんなことも含めて何か広い議論ができると、何かこう未来の松本市ができるんじゃないかなということを考えてきましたのでよろしくお願ひします。以上です。

(生涯スポーツ 根本会長)

ありがとうございます。時間も過ぎておりますので終わりにしたいと思います。ご意見まだあると思いますが、また事務局の方にですね問い合わせいただきたいと思います。いずれにしてもこの推進計画ですので、松本のチームの皆さんが計画を見て計画倒れにならないということが一番大事だと思いますので、言葉のこともそうですが、市民の皆様に反映されるような内容に是非なっていければなと思いますのでどうぞよろしくお願ひいたします。そうしましたら、会議事項、全て終了しましたので進行を事務局の方へお戻ししたいと思います。

よろしくお願いいたします。

(スポーツ事業推進課 東山)

ありがとうございました。書類にあるんですが、次回は1月下旬ごろの開催を予定しております。日程が決まり次第早めにご連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。以上を持ちまして、令和6年度第二回松本市スポーツ推進審議会を閉会いたします。本日はお忙しいところご出席いただきありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

(スポーツ事業推進課 齋藤)

すみません。先ほどの企業理念の関係ですとかいろいろご意見有りましたら、12月中に事務局の方へご連絡いただければと思います。皆様のご意見を参考にさせていただいて、次回の会議の方に抱えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。